

地方独立行政法人長野市民病院医学雑誌 投稿内規

2016年11月1日
教育研修センター

(目的)

第1条 長野市民病院医学雑誌(以下「本誌」という。)は、医学、医療、看護、病院管理などに関する研究、研修、教育の成果の発表の場とすることにより、職員相互の啓発、研鑽に役立てることを目的に発刊する。

(編集委員)

第2条 本誌の編集委員は次の各号に掲げる者で構成する。

- (1) 教育研修センター職員
- (2) 前項より任命を受けた者

(投稿資格)

第3条 筆頭著者、共同著者は地方独立行政法人長野市民病院(以下「長野市民病院」という。)の職員であることを原則とする。ただし、編集委員が認めた者についてはこの限りではない。

(投稿内容等)

第4条 国内外を問わず、他出版物にすでに掲載あるいは執筆されていないものを原則とする。ただし、学会および研究会等の講演に関するものについてはこの限りではないが、その場合は原稿末尾にその旨を記載する。

2 長野市民病院で行われた医学研究、医療、看護、病院管理に関する研究を対象とする。

3 原稿の種類は次の各号に掲げるものとする。

- (1) 原著論文
- (2) 総説
- (3) 症例報告
- (4) 事例報告
- (5) その他(随想、学会印象記、書評、トピックス、活動報告、取り組み、調査)あるいは編集委員が認めたもの

《用語解説》

【原著論文】特定の分野について独創性あるいは新規性のある文献で、著者自身の情報または分析から得られた知見や実践を、論理的に記述されているもの。

【総説】既に公表された特定の分野について、関連文献、資料に基づき総括的に概説、考察したものの。

【事例報告】独自のテーマで行った研究や調査、実践の事例についてまとめたもの。

(倫理・個人情報保護)

第5条 研究内容に関しては、倫理性に十分留意すること。ヒトを対象とした臨床研究に際しては、長野市民病院医倫理委員会の了承を得ることが望まれる。やむを得ず了承が得られていない原著論文には、ヘルシンキ宣言(1964年採択、2008年改定)を遵守して行ったものであることを必要とし、被験者の人権、安全性、インフォームドコンセントなど倫理的に配慮した旨を本文中または文末に明記すること。

2 症例報告については、執筆対象者の同意を得ることを原則とし、個人情報の取り扱いについては、対象者が特定されぬよう十分留意すること。

3 投稿原稿の内容に関し、共同著者を含めた全著者の当該原稿に関する利益相反に関する事項について開示し、その内容は本文の文末に記載し公表すること。利益相反開示事項がない場合は、文末に「本論文に関して、開示すべき利益相反状態は存在しない」の文言を記載すること。

(著作権等)

第6条 本誌に掲載された原稿の著作権は長野市民病院に帰属し、原著論文、総説、症例報告についてはメディカルオンラインに公開されるものとする。

2 掲載にあたり筆頭著者は別紙1の「投稿承諾書」に、すべての共同著者の同意を得て代表として署名し、原稿に添付する。

(原稿の様式)

第7条 原稿の種類は第4条3項の各号とし、その種別を明記する。

2 原稿は原則として和文とする。

3 その他の事項については、原則として別表第1のとおりとする。

(査読)

第8条 編集委員会より任命を受けた2名以上(必要に応じて編集委員会が適当と認める院内外の専門家を含める)で原稿の査読を行い、必要に応じて内容の加除訂正を著者に依頼できる。

(編集)

第9条 本誌の編集は編集委員会で行う。(編集委員会は別に定める)

2 編集体裁を統一するため、編集委員会で一部変更することができる。

(事務局)

第10条 本誌の事務局は、教育研修センター事務員とする。

2 原稿は出力紙とともに電子媒体で事務局に提出すること。院内メールまたは電子メールによる提出も可とする。

〒381-8551 長野市大字富竹1333番地1

地方独立行政法人長野市民病院 教育研修センター

「長野市民病院医学雑誌事務局」

電子メールによる投稿 e-mail:kensyu@hospital.nagano.nagano.jp

附則 この内規は2016年11月1日より実施する。

この内規の一部を改訂し、2017年3月1日より実施する。

この内規の一部を改訂し、2019年8月1日より実施する。

この内規の一部を改訂し、2021年4月1日より実施する。

この内規の一部を改訂し、2023年12月12日より実施する。

別表第1

【原稿の種類問わず共通様式】

オフィスソフト	Microsoft Word
原稿サイズ	A4サイズ・横書き
用字	固有名詞・学術用語以外は、ひら仮名・常用漢字・現代仮名遣い
書体	日本語：MS明朝 英 文：century 数 字：century（度量衡単位はCGS（m、mm、%、℃）単位 細菌名：学名はラテン語表記 イタリアック体 薬品名：一般名 商品名を使う場合は一般名のあとに®を付け、 （ ）で書き入れる *記載例：エチゾラム（デパス®）
図・表	<ul style="list-style-type: none"> ・明瞭なもので、1項目ずつA4用紙1枚 ・項目ごとに付番し、番号に従って本文中で引用 ・標題、簡潔な説明文を附記 ・他書から引用した場合は出典を明記
引用文献	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿本文の引用した箇所の右肩に引用番号を肩括弧で掲載 *記載例：富竹¹⁾ ・文末に引用順に文献名を記載 ・添付文書、新聞からの引用については、本文中に記載し、引用文献に含めない *記載例：注意喚起されている（ワーファリン®錠添付文書、エーザイ株式会社、2017年8月改訂）。 ・著者名は3名まで明記、それ以上の場合は「，他」または「，et al.」とする欧文表記の場合も「姓-名」の順に表記する ・編集者、監修者の場合は、名前のうしろに「編」または「監」または「，ed.（複数形はeds.）」をつける翻訳の場合は、名前のうしろに「訳」または「，trans.」をつける ・外国雑誌名はPubmedの省略名に準拠し、和雑誌は省略しない
◆書籍引用 *記載例	引用番号) 著者名：表題. 書籍名（編集者、監修者、著者名または翻訳者名），版，出版社名，出版地（外国文献の場合），引用頁ー引用頁（書籍全体の場合は「総頁p.」），発行西暦年号.
書籍の一部	<p>1) 長野太郎，富竹二郎，市民花子，他：津波災害による負傷者の神経内分泌学的ストレス. 東日本大震災（長野太郎 編，市民三郎 監），第2版，富竹出版，9-15，2014.</p> <p>2) Nagano T, Tomitake J, Shimin H, et al.: Emphysematous cholecystitis. Bockus Gastroenterology (Nagano T, Shimin S, eds.), 4th ed., WB Tomitake Company, Philadelphia, 3610-3612, 1985.</p>
書籍全体	<p>3) 長野太郎 編，市民三郎 監：東日本大震災，第2版，富竹出版，153p.，2014.</p> <p>4) Nagano T ed.: Bockus Gastroenterology, 4th ed., WB Tomitake Company, Philadelphia, 772p., 1985.</p>

【原著論文・総説・症例報告】

<p>表紙（各種共通）</p> <p>A 4 用紙 1 枚にまとめる</p>	<p>①原稿の種類（原著論文、総説、症例報告）</p> <p>②表題</p> <p>③代表著者氏名、所属名（チーム名、委員会名）</p> <p>④共同著者名、所属名</p> <p>⑤キーワード（5つ以内）</p> <p>⑥要旨</p>
<p>◆原著論文</p>	<p>①はじめに</p> <p>②対象と方法（倫理的配慮）</p> <p>③結果</p> <p>④考察</p> <p>⑤結語 （⑥謝辞）</p> <p>⑦文献</p>
<p>◆総説</p>	<p>①はじめに</p> <p>②総説文（項目ごとにタイトルをつける）</p> <p>③文献</p>
<p>◆症例報告</p>	<p>①はじめに</p> <p>②症例説明</p> <p>③考察</p> <p>④結語 （⑤謝辞）</p> <p>⑥文献</p>

【その他の原稿】

特に様式は定めない。